

— 1 —
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

シングルマザーの雪子は一人息子の貴文を育てている。「元夫の遼は自分勝手で、雪子はいまだに心身ともに深く傷ついている。しばらく前、小学一年生になった貴文の運動会があった。」

数日後の昼さがり、スマートフォンに非通知設定の着信があった。貴文の学校からということもあると思って、つい応答ボタンを押すと、

「久しぶり」

と声がした。

雪子は二秒ほど呼吸を忘れた。

学校からの電話が非通知のわけがない。せめて留守電にして確認すればよかったという思いと、どうして電話をかけてきたのだろうという疑問で、心がぐらぐらする。

「貴文は元気？」

少し大きく張るような声。わざとらしい響きに、遼の緊張を感じとり、雪子はいくぶん安堵した。

「元気にしてますけど。どうしたんですか」

「なんか、堅いね。急に、驚かせてごめん」

雪子が実家に戻ってから、初めての電話だ。いったいどうしたのだろうと思いつながら、何にともなく期待している自分に気づく。まさか、やり直したいと言ってくるわけでもあるまいと分かっているのに、遼が何を言ってくれるのか、期待しながら待っている。

「貴文の学校って桜丘小って言ってたよね。運動会のビデオは撮った？」

「もちろん撮ったけど。運動会、来てくれなかったよね」

「あー、悪い。仕事があったって」

「日程は伝えてたよね」

「だから、仕事があったんだよ」

「あの子、すごかったの。徒競走で一位だったし、ダンスも上手に踊ってた。学年が上がったら、きっと選抜リレーのメンバーになれるよ」

勢いついて喋りながら、遼が息子の晴れ姿を見たがっけいていることに、ほっとした。できれば貴文と一緒にビデオを見てもらいたい。わたしの感情はともかく、貴文にとっては、父親からのひと言、「頑張ったね」「すごかったね」、そんな何気ない感想がどれほど大切なものになるだろう。

「……見にくる？」

さりげなく、雪子は誘った。

「ビデオで撮ったから、どう転送すればいいのか分からないから。もしよかったら、うちに見に来てもいいけど」貴文もいるし。

「う、ん。そうだね。あのさ、それでさ、組体操の事故シーンって撮れてる？」

「えっ」

「いや、M H V テレビの同期に聞いたんだけど、桜丘小の組体操、タワーが事故ったんでしょ。その時の画を探してるんだ。今、組体操がいろいろ問題になってるから」

「問題に？」

「組体操は危ないから、こどもにやらせないほうがいいっていう運動があるんだよ。それで今回の事故の映像、うちのライターが見たいって言って。うまく撮れてたらネットニュースに公開したいんだ。もちろん謝礼はする。そんなに多くは出せないけど」

まくしたてる遼の声を、知らない国のことばのように聞いている。何を言われているのか分からない。いや、分かるのだけど、理解しようと心が開かない。

「聞いている？」

遼の口ぶりが、いつしか高圧的なものに変化していることに、雪子は気づいた。

「撮ってあるよね？」

「撮ってないです」

「ええ？ 撮らなかったの？ じゃあさ、誰か他の親に当たれないかな？ M H V が二十日の特集で取り上げるから、なるべくその前がいいんだよね。まあ、その後になったほうが、面白い展開になるかもしれないけど」

「面白い展開……」

「や、あつちは感動路線で番組作ると思うけど、こっちは真つ向から反対で、組体操どうなの？ って主張の特集になる。そうしたらネット上で全面戦争的な。P V も稼げるからその方がかえって面白くなるかもしれない。できれば、落ちた子をちゃんと撮ってる動画がほしいんだよね。もちろん出所は伏せるけど。ある意味、そういう危ない芸当をさせる教育の現場に声を上げていく意義もあるっていうかさ」

遼は、貴文に興味がない。

徒競走の一位も、頑張った玉入れも、小学一年生の今しかできないあの可愛らしいダンスにも。

「無理だと思う」

答える自分の声が、他人のもののように遠く聞こえた。

「は？ 無理？」

「うん、無理。わたし、桜丘小にひとりも友達いないから」

「なんで」と、言いかけて、遼もさすがに思うところがあつたのか、口をつぐんだ。だけど、すぐまた訊いてきた。

「誰かに頼めない？」

「頼めない」

「まー、じゃあいいや。ごめん。こっちのルートで探すわ。それじゃ」

「大きな怪我はしていなかったよ」

雪子は言った。

「え？」

「転落した子のこと。ひやつとしたけど、その後、ちゃんと自分の足で歩いて保健室に向かっていたから。うまく滑り落ちたのか、誰かおとなが支えたんだと思う」

気になるでしょう？ 息子の小学校でそんな事故があつたなら。

「ああ、うん。そうだね。危ない競技は、これからのこどもたちのためにも、ちゃんと見直したほうがいいと思うよ。」

で……、貴文は元気？」

A とつてつけたように遼は訊いた。

「あの子はすごく元気。こっちの学校に慣れて、友達もたくさんできた」わたしはまだボロボロだけどね。

「そうか。よかった」

ひと呼吸、ふた呼吸。それから雪子は、きっぱり言った。

「これからは、直接電話してくるのはやめて。弁護士さんを通してください」

「何、そんな冷たい言い方しないでくださいよ」

「冗談めかした口ぶりに、彼の甘えがにじむ。まだ舐められているんだろうと雪子は思った。最初からそうだった。でも、それはわたしのせいだ。舐めさせていたのはわたしのからだから。」

「そういえば、さっき、ビデオを見に来ないかって言ってたよね。貴文の運動会のビデオ。見せてよ」

B おもねるような口ぶりになって、遼が言った。優しい言葉ひとつたつて、人の気持ちなぞ簡単に、もと通りになる

と信じている。

「撮っていません」

「え。で、でもさっき」

「あなたのためには撮っていません」

きっぱりと言って、電話を切った。

非通知設定の電話には、もう二度と出ない。

試しにまばたきをしてみたが、涙は出なかった。瞳は乾き切っていて、電話で話す前よりも、部屋の中のすべてが急にくつきりと輪郭を持って見えてくる。

ありがとうと言いたい気分だった。

みじめったらしい未練から解放してくれてありがとう。

ふいにどこからか鼻歌が聞こえてくると思ったら、自分が歌っていた。愉快なリズムに、一抹の哀れ。『天国と地獄』。

感情なんて、ほんのきつかけ一つで、大きく振りきれてゆくものだな。こんなものに締めつけられて、自分で自分を閉じ込めて、前に進まないことの言い訳をしていた。

仕事を探そう。

何かに打たれたように、雪子はふっと決めた。

（朝比奈あすか『人間タワー』）

* 非通知設定：電話をかける相手に、発信者の番号を知らせないようにする設定。

* ライター：記者のこと。

* PV：ページ・ビューの略。インターネット上の特定のページがアクセスされた回数。

問1 むゝ線A「とってつけた」B「おもねる」の本文中の意味について、もつともふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A とってつけた

ア ためらう

イ 恥ずかしがる

ウ 心配する

エ 取り繕う

オ 結論を急ぐ

B おもねる

ア 思いつめた

イ あわてた

ウ 励ます

エ いたわる

オ 機嫌をとる

問2 線1「わざとらしい響きに、遼の緊張を感じとり、雪子はいくぶん安堵した」のはなぜか。その理由としてもつともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 遼の思惑がわからず動揺していたが、遼も普通の様子ではないのを感じて、自分が一方的に振り回されるおそれはないと思ったから。

イ 遠慮している遼の声を聞いて、かつて自分を傷つけたことを反省して謝罪するために電話をかけてきたと思ったから。

ウ 遼に深く傷つけられた思い出がよみがえり本当は電話を切ったかったが、記憶よりも優しい遼の声を聞いて、自分も悪かったと思ったから。

エ 意外にも遼が貴文を思いやる言葉を口にしたので、もしかしたら幸せな家族として再出発できるのではないかと思ったから。

オ 真剣な話題かと身構えたが、貴文にうわべだけの気づかいをする遼は自分勝手な人間だと思い、適当にかわせばよいと思ったから。

問3 線2「さりげなく、雪子は誘った」とあるが、この時の雪子の心情としてもつともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 遼が自分たちに会いたがっているのを理解しながらも、素直に愛情を返せずにいる。

イ 遼を好きだった頃の気持ちを思い出して、彼の思いに応えなくなっている。

ウ 本当は遼と会いたくないが、貴文は父親からのひと言を欲しているので悩んでいる。

エ 遼が父親として貴文に関わり、彼の成長の助けになることを期待している。

オ 貴文の成長を誇りたいが、遼に付き合わせるのは悪いと思って遠慮している。

問4 線3「まくしたてる遼の声を、知らない国のことばのように聞いている」とあるが、この時の雪子の心情としてもつともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 遼は貴文の成長を気にかけているわけではなく、他人のこどもを守るための使命感から電話をかけてきたことがわかって落胆している。

イ 遼が電話をかけてきたのは貴文に対する愛情からではなく、自分の一方的な都合であると知ってがく然としている。

ウ 遼は離婚の原因となった仕事にいまだに熱中しており、その姿を尊敬しながらも互いの心の距離をさみしく思っている。

エ 運動会のビデオと引き換えにお金を渡すと言われ、完全に他人として扱われていることに深い悲しみを抱いている。

オ 遼は息子を持つ身でありながらこどもたちのプライバシーに全く配慮しておらず、母親として恐怖を感じている。

問5 線4「面白い展開になるかもしれないけど」とあるが、遼は何を「面白い」と言っているのか。次の文に当てはまるよう、(①) (②) (③) に入るもつともふさわしい表現を、それぞれ本文中から指定された字数で抜き出ささい。また、A B に入るもつともふさわしい対義語の組み合わせを、それぞれ漢字二字で考えて答えなさい。

組体操を (①・二字) 的なものととらえ A する番組に対して、組体操を (②・三字) ものと考える B するニュースを発信することで、(③・五字以上十字以内) が起きること。

問6 線5「大きな怪我はしていないかったよ」と雪子が言ったのはなぜか。その理由としてもつともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 教育現場に声を上げるならば事故の詳細はよく知るべきだと考え、遼の仕事への中途半端な態度を指摘しようと思ったから。

イ 落ちたこどもがおとなに支えられて助かったということを強調して、遼にも貴文のことを支えてほしいと思ったから。

ウ 組体操の事故は遼が期待しているような大問題ではなく、わざわざ記事にするほどの価値はないと嫌味を言うてやろうと思ったから。

エ せっかく電話をかけてくれたのに会話が続き、このまま遼と話す機会が失われてしまうのではないかと思っ

たから。

オ こどもたちの安全についてもつともらしく語っているが、実際は自分の息子にすら関心がない遼の姿を明らかにしようと思ったから。

問7 ―線X「う、ん。そうだね」と―線Y「見せてよ」を比べると、遼の態度はどのように変化しているか。その説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア Xでは雪子に同意を示したにもかかわらず、その後協力を断られたので不機嫌になり、Yでは高圧的な態度をとることで雪子を思い通りに動かそうとしている。

イ Xでは雪子の誘いをはぐらかしているが、その後真剣に語りかけられて心を動かされ、Yでは彼女に正面から向き合ってもう一度やり直そうとしている。

ウ Xでは貴文の姿を見てほしいという雪子の望みを受け流しているが、その後彼女の機嫌が悪くなったことを察知して、Yでは要求に応えるそぶりを見せている。

エ Xでは雪子に応えようとしたが、その後会話をしていくうちに溝が生まれていき、Yではあえていいない口調で雪子に他人行儀な態度を示している。

オ Xでは貴文のことを後回しにしているが、その後雪子と話すうちに家族の大切さに気付く、Yではもう一度貴文の姿を見たいと心から思っている。

問8 ―線6「瞳は乾き切っていて、電話で話す前よりも、部屋の中のすべてが急にくつきりと輪郭を持って見えてくる」とあるが、この部分は雪子のどのような状態を表しているか。その説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あくまで自分勝手な遼の様子を見て、人生を台無しにされたことへの怒りがこみ上げた。

イ 本心では遼と家族に戻りたいが、甘え切った態度を見てもはや不可能であると確信した。

ウ 雪子のことを都合のいい相手と思っている遼と、これ以上関係を続けることは無意味だと気づいた。

エ 父親として頼りたかった遼に全く相手にされなかったので、自立するしかないとききあきらめた。

オ 遼に嫌われるようなことを言ってしまったので、もう彼からの愛情は取り戻せないと覚悟した。

問9 ―線7「『天国と地獄』」とあるが、これについての説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 曲名の『天国と地獄』に表れた対照性は、これまで遼の言動に振り回されてきた雪子の感情の振幅を意味している。

イ 曲名の『天国と地獄』に表れた対照性は、雪子にとって遼と暮らした過去は美しく、孤独に生きる未来が過酷であることを意味している。

ウ 雪子が鼻歌を歌っていることは、彼女が過去の自分を滑稽で哀れな存在として振り返っていることを表している。

エ 雪子が鼻歌を歌っていることは、彼女が貴文を一人で育てることにプレッシャーを感じながらも自分を励ましていることを表している。

オ 雪子が自分の鼻歌に気づいていないのは、遼と離れたことに対して内心抱いている後悔を、彼女が自覚していないからである。

カ 雪子が自分の鼻歌に気づいていないのは、遼の生き方を変えられた達成感に満ちていることを、彼女が自覚していないからである。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

どうしてこんな遠くまで、わざわざオリンピックなんか見にきたのか、とあなたは尋ねるかもしれない。オリンピックについての一冊の本を書くためです。どうしてオリンピックについての本なんか書くかと思ったのか？ そうだね、実のところ、僕にはよくわかりません。考えてみれば、僕はオリンピックになんて、正直言ってほとんど興味がなかったのです。いつだったかアメリカの小説を読んでいて、「オリンピック・ゲームと同じくらい退屈だった」という文章におつかったことがあります。そしてその一行を読んで、「うん、実にそのとおりだね」と共感したことを記憶しています。

ここに来てつくづく思ったんだけど、現代のオリンピック・ゲームを推進しているのは、国家主義と商業主義というふたつのエンジンです。この双子の兄弟の力なしには、現代の肥大化したオリンピックはどこにも行けません。そのツインターボのまわりを、ごてごてと幻想で塗り固めた豪華なはりばて、それが要するにオリンピック・ゲームです。はりばてはとても強い引力を持っているので、表面には世界の一流アスリートたちがべたべたと張り付いてくる。テレビの画面が映し出すのは、このゴージャスな表面の眺めです。でもここで僕らが目にすることになるのは、ときとしてあまりゴージャスとは言えない内側のリアルな風景です。

ゲームについて書きます。オリンピック・パークに行くと、いろんなところで、いろんなスポーツ競技が、実にとりとめもなく（少なくとも僕の目にはそう映ります）勝気ままに行われています。そこには主題というようなのは、ぜんぜんないように見えます。動機はある（多分あるはずですが）。ところが一貫した主題が見えてこない。シンクロナイズド・スイミングと同時に男子重量挙げが行われています。アーチェリーと同時にトランポリンが行われています。カヤック競技と同時に砲丸投げが行われています。そういうのは内側にいる、つまり「オリンピック環境」の中に含まれている僕には、すごく無秩序な営みに見えてなりません。そのうちに「シンクロナイズド重量挙げ」とか、「トランポリン跳びアーチェリー」とか、「カヤック投げ」、なんてものがあってもいいんじゃないかという気さえしてきます。どうしてあつてはいけないんだ、と。どうしてこれがあつて、あれがあつてはならないんだ、と。

ここでもう一度最初のテーマに戻ります――ブラームスのシンフォニーみたいに。オリンピックは退屈なのか？ そう、イエス、オリンピックは退屈なものです。実際に現場に来てみるとよくわかります。世の中の人々の多くは、オリンピックは実は退屈なものなんだという峻厳な事実からすつと目を背けようとしているけれど（そのように僕には見える）、僕は目を背けません。それをまず最初に認めてしまおう。

じゃあどうして人々はそれを退屈だと思わないように努力するのでしょうか？ オリンピックは退屈じゃないはずだという強い思いこみ（事前決定）があるからじゃないか、と僕は思うのです。例にあげては悪いけど、あなたはオリンピックのとき以外に、やり投げとか、水球とか、競歩とか、アーチェリーとかの試合を見ますか？ ほとんどの人は見ないはずです。それらはオリンピックという特殊な時間性の中で、もちろん一般的な見地からすればということですが、初めて意味と輝きを持つてくるのです。そういうのは原理的に言って「事前決定」という以外の何ものでもないですね。僕が「カヤック投げ」のを持ち出したのは、そういうことが言いたかったからなのです。

もちろんひとつひとつのプレイは技術的には精妙です。それは認める。しかしそのような精妙さ（たとえばホッケーのスティックの見事なフェイスの返しとか）は正常な時間性のトラックから降りたところで、言うなればアリスのうさぎ穴の中で、作られているものです。極端な話、そんなものが世の中になくたって、僕はちつともかまわない。スティックのフェイスがどんな風に美しく返されるかなんて、ドバイの首長が昨日の夕食になにを食べたのかというのと同じくらい、僕の現実生活には関係のないことなのです。そんなのはつまり言って、どうだつてかまわない。

しかしスティックのフェイスの返しを双眼鏡でじつと熱心に追っていると、何はともあれまことに見事なものだし、ついつい引きずり込まれさえます。時間がたつのも忘れてしまいます。そしてあるときはつと我に返って、そのようなゆがんだ時間性の中に毎分毎秒失われていきつつある自分の姿を発見するのです。そこにあるのは、とてもとてもクオリティーの高い退屈さです。しかしどれだけクオリティーが高くても、本質が退屈であることに変わりはありません。テレビで見ているのなら、そこではちゃんとチャンネルを消せばいいだけの話です。僕らはすぐにいつもの日常生活の場に戻っていくことができる。でも台風の目の真ん中にいると、それができません。僕らには逃げ場がないのです。そ

の渦とともに並行的に移動していくしかありません。僕は退屈さの中に、固有の意味を見いだしていくことになりま
す。意味というのは、一種の痛み止めなのです。

オリンピック委員会は選手たちに対して厳しくドーピング検査をします。でも僕は思うんだけど、彼らは選手にでは
なく、観客に対してこそドーピング検査をするべきだ。そこからはきっと、ずいぶん不健全な分泌物を含んだ精神が発
見されるはずです。

(村上春樹『シドニー』による)

- * オリンピック：2000年にオーストラリアで開催されたシドニーオリンピック。
- * カヤック競技：カヌー競技の一種。
- * アリス：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』。
- * ドーピング検査：薬物使用等の検査。

問1 線1「内側のリアルな風景」とあるが、筆者が実際に現場で目にしたオリンピックの「内側の風景」を解答
らんに合わせて三十字以内で説明しなさい。「競技」「主題」という二つの言葉を必ず用いること(使用する順番は
問わない)。ただし、句読点等の記号も一字として数える。また、あたえられた書き出しは字数にふくめない。

オリンピックの現場では、

三十字以内

問2 線2「そこにあるのは、とてもとてもクオリティーの高い退屈さです」とあるが、筆者はどのような点に
「クオリティーの高い退屈さ」を感じているか。それについて説明した次の一文を、それぞれの解答らんに指定さ
れた字数で言葉を入れて完成させなさい。ただし、句読点等の記号も一字として数える。

オリンピック競技は

十字以内

であるが、

五十字以内

ものにすぎない点。

問3 線3「観客に対してこそドーピング検査をするべきだ」とあるが、本文全体をふまえて筆者がこのように述
べる理由を八十字以内で説明しなさい。「思いこみ」「痛み」「批判」という三つの言葉を必ず用いること(使用す
る順番は問わない)。ただし、句読点等の記号も一字として数える。また、あたえられた書き出しは字数にふくめ
ない。

筆者は、観客が

八十字以内

三 次の問いに答えなさい。

問1 次の①～⑦の文中にある——線のカタカナを漢字に直しなさい。ただし、送りなが含まれるものは送りがなを
ひらがなで答えること。

- ① 近隣のチイキのボランティア活動に参加する。
- ② 弟はドキヨウがあり相手が誰でも立ち向かっていく。
- ③ 父親も母親も会社にとつめている。
- ④ 規則にシタガイ、その中で精いっぱい努力する。
- ⑤ 国民の一人として税金をオサメル。
- ⑥ 栄養をオギナウために必要な食物を摂取する。
- ⑦ 次の役員会議はキボが大きい。

問2 ①～⑤のことわざの□に漢数字を入れ、その数の大きいものから順番に並べ、記号①～⑤で答えなさい。

- ① 雀□まで踊り忘れず
- ② □人寄れば文殊の知恵
- ③ 悪事□里を走る
- ④ 人の噂も□日
- ⑤ 腹□分目に医者いらす

(以下 余 白)

左のらんには何も
書かないこと

【注意】

- ① 受験番号は、算用数字で横書きにすること。
- ② あみかけの部分には、何も書かないこと。

受 験 番 号				